

様式4

令和6年度 学校運営協議会評価報告書1

鳥取県立白兔養護学校

学校長 原 康浩

評価日	令和6年11月8日（金）
評価・提言	学校の所見・改善策
1 <学校自己評価目標達成のための課題に対する具体的方策について：特に評価Dの項目> ・他校では自宅付近の防災マップや気象台のコンテンツで台風の接近等を調べている。高等部の生徒を対象に気象台が授業をすることもできるのでぜひ利用してほしい。 ・以前の学校自己評価でもAが一つもなく、評価が厳しいと思うことがあった。もう少し緩やかに評価してもよいのではないか。 ・高等部はタブレットは実費負担で購入とのことだったが、危険サイトで高額請求が来る等のリスクもある。安全性について保護者と話ができているとよいと思う。 ・体操のときに動画を見せるなど、上手にICT活用できていた。教室に入れない児童とiPadでつながりというのはよい取り組みだと思う。授業参加につながるとよい。 ・高等部は障がいのある子どもの作品展などもある。芸術家としての才能のある子もいる、力を入れていくことも必要ではないか。 ・高等部のよろずや、小学部は小学校との交流、一生懸命頑張っておられる。中学部のスポーツ大会に参加したが、参加者はみんな楽しかったと言っていた。ぜひまた声をかけてもらいたい。 ・高等部の進路学習について、なぜ研修を持つことができなかったのか、原因を書いてもらおうと我々も改善策を提案しやすい。 ・時間外勤務の削減と休憩時間をゆったり過ごせることはちがうのでは。原因をどう解決していくかを考えないといけない。絶対量を削減しないと時間外が減らないのでは。職員からアイデア、要望、	⇒来年度の高等部の防災教育として検討する。 ⇒学校自己評価はオールAを目指したい。 ⇒引き続き、生徒への指導を継続。 ⇒児童生徒の学びにICTを効果的に活用していくことを継続していく。 ⇒児童生徒の無限の可能性を引き出すための方策を考え、具体的取組を検討する。 ⇒地域との活動や取組を工夫し、継続していくための方策を考える ⇒原因を探っていくことが解決へつながっていくことを考慮し、取り組んでいく。 ⇒書類作成減、会議を減らすなど意見は出るが今後も安全衛生委員会等で検討していく。

意見は出ていないか。

- ・えもんカフェ（休憩時間に学部を超えて雑談できるティータイム）はよい発想。しかし参加は同じメンバーになってしまいがちである。休憩時間は強制的に休憩させるくらいしないと職員はなかなか休まない。自分も自販機の前でタバコを吸いながら社員と話をする機会がある。話をしていくうちにちがう目線で業務を捉えることにつながる。
- ・カフェに集まった人だけでなく、全校で取り組んでいくのがよいと思う。
- ・まじめな先生は自分の家庭を大切にするために業務を効率よく、とも考えないといけない。

<地域学校協働活動の拡充について>

- ・コロナ前の取組を再度考えてみてはどうか。働き方改革の視点も必要で、何でも増やすのがよいわけではない。
- ・先生も生徒も楽しんでできるのがよい。準備もそんなにいらぬような活動がよい。
- ・今やっていることを継続することも大事。地域との交流をどういうことでやればいいのかを工夫したい。獅子舞はどうか。末恒小5年は地域の獅子舞を学習している。
- ・しゃんしゃん祭りは鳥取の祭りなので、踊り手に来てもらって踊りを見せるのもよいかも。手間がかからず7月中頃ならやってもらいやすいと思う。
- ・かなり前だがすえつね文化祭で養護学校の太鼓を披露してもらったことがある。今は土日だと難しいかもしれないが、地域の方にも養護学校の子どもたちを見ていただくのはよいことだと思う。

⇒他校種に比べると時間外勤務は部活や定期考査があるわけではないので少ない。本校は昨年度に比べて時間外勤務が増えている。行事を見直す、教員がになうべき業務なのか検討するなど、どの部分でどう増えているのか分析が必要。熱心な先生が多いので授業準備にも熱が入り、時間外勤務が増えている傾向。

えもんカフェはねらいのひとつとして、休憩時間は休憩しようよ、その時間に仕事してもあまり効率が上がらないんじゃないの、と気づけるようにしたかった。メンバーが固定化したとしてもそれが伝わればと期待している。若い世代にコミュニケーションがあまり得意でない者がいる。カフェがきっかけになればと思っている。

⇒子どもたちの自分の生き方、過ごし方は土日関係ないと思うので、これに参加してみよう、ここに行ってみようという思いを支援してくださる方がいるとありがたいと思う。

・白兎海岸の清掃を地域とやるのはどうか。 2 地域との連携防災活動について 鳥取地方気象台等からの意見 ・土砂災害警戒エリアに囲まれている。校庭もそうなので危険。高等部棟の1階、2階や体育館には土砂が流れ込む可能性がある。小中学部棟の校舎は土砂が流れ込んでも1階までであるから2階、3階への避難は可能である。避難場所としてはそこが確保できると思う。校舎は鉄筋なので建物が崩れることは考えにくい。 ・窓が割れる、ドアが開かないなどは起こり得る。避難経路確保のためにドアは開けてほしい。校舎にヒビが入る部分はあるかもしれないが、校舎が崩れることはないと思う。 ・斜面から離れた側の校舎2階は助かりやすい。土砂の上に降りて避難することを考えると梯子が必要かもしれない。 ・学部ごとに避難場所を変えるのもありかと思う。 ・晴天であれば土砂災害は起きにくいですが、雨天だと崩れる可能性が高い。標高9 mあるので、津波は上がってこないとは思いますが、100%とは言えない。リファレンス側には土砂崩れは起きないので、リファレンスに逃げるのはよい判断だと思う。 ・校舎が土砂で埋まったときの対応は自助努力では難しい。自衛隊等の協力が必要では。避難時に子どもが安心して過ごせるような環境整備が必要。食べ物、飲み物等の準備はもちろんだが。 ・校舎内は窓が割れている、物が倒れている等あるかもしれないが、校庭への避難は危険。はじめから校舎内への避難がよい。 <全体を通して> ・がんばってください！校庭への避難は危ないことがわかってよかった。教室を仕切ったりつなげたりできるパーティションはよかった。 ・アスリート派遣事業（フェンシングの選手を高等	⇒「白兎のご縁」として取組を進めていきたい。予算要求もしているところである。 ←校舎内はどのような状況になると予想されるか。 ⇒3階に逃げるという発想はなかったが、いろいろな避難方法が考えられる。全校一斉でなくても、学部ごとに避難場所を分けることも検討する。消防署からは雪の日でも外（リファレンス）に避難するのか等、指摘を受けた。まずは生命を守ることを考えると、2階、3階への避難を考えたい。 ←校庭に避難後、校舎に戻っても大丈夫か。 ⇒次の会では本校の防災の方向性を示したい。
---	--

部に招へい)、すごく良い体験をしていると思った。自然豊かな学校、反面危険性もある。専門家の話を踏まえてよりよい訓練が可能になる。 ・タブレット活用は小学校でも1人1台で活用している。養護学校でも進んでいると感じた。 ・夏に小学部防災教育に来させてもらった。教員140名、すごい数だと思ったがこれだけ先生が子どもたちを支えているのだと思った。避難想定の見直し等、气象台としても協力していきたい。4、5年生の防災教育では「雷のときには」等、身についたことを子どもが発言し、役に立ててるかなと感じた。継続してもらえればありがたい。今後も協力させてもらいたい。	
--	--